

集落営農組織を中心とした倉敷地域の 稲WCS生産流通の取り組み

倉敷農業普及指導センター

1 はじめに

倉敷管内では、行政機関等が主体となって数年前から水稻担い手（主に集落営農組織）農家に対して、稲WCS生産流通の取り組み啓発を行ってきました。

さらに今年の春から、農業普及指導センターが各地域水田協議会に対して積極的に働きかけ、JA担当者を交えた個別訪問・相談会等で新規作付を推進しました。

その結果、新規に総社市（1集落営農組織）倉敷市（1戸）で稲WCS生産を予定する等、管内のWCS用イネの面積は昨年の19.4ha（3組織 18.1ha、1個人 1.3ha）から43ha（4組織 39.6ha、2個人 3.1ha）に大きく拡大しました。（前年比 222%）

また、今年度から戸別所得補償モデル対策がスタートし、県下的にも栽培拡大が見込まれる中、一方では稲WCSの生産増加に伴う需給調整と広域的な流通体制の整備が求められています。

今回は、倉敷（備中）地域における最近の稲WCSの取り組み状況を紹介いたします。

2 集落営農組織等のWCS用イネ栽培・収穫調製の状況

普及指導センター職員が講師となって地区別講習会（総社地区は4/26、倉敷地区は5/10）を開催し、各地域水田協議会で協議作成した栽培ごよみに基づき、農薬・除草剤の適正使用や、畜産農家が望む飼料価値（品質）の高い稲WCS生産について、年度当初から栽培者に対して周知徹底を図ってきました。

さらに、今年度新たに取り組む総社市上楨谷営農組合（33戸、稲WCSの作付 13.3ha）

を中心に、湛水直播用種子の鉄コーティング作業・播種時や初期生育の水管理等をJA担当者と連携しながら重点的に巡回指導しています。



湛水直播用種籾の鉄コーティング作業

また、総社市の4つの集落営農組織（原、山田、三輪、上楨谷）と倉敷市（2個人）の計6か所に、湛水直播・化学肥料低減（鶏糞＋たい肥）による栽培技術実証ほを設置しています。

そこを生育経過等の観察拠点とするとともに、作業時間や生産費用についても調査・取りまとめを行い、今後の推進資料として活用する等、省力・低コスト稲WCS生産技術の確立を支援していきます。

収穫調製については、総社市の三輪地区営農推進組合が（昨年）専用収穫機を導入しており、同市内上楨谷地区のコントラ作業を請け負う予定ですが、他のところはすべて地域外のコントラクター「新見のウエストカントリー」と「アグリライフ岡山」に依頼（6月に開催されたマッチング会議の場で調整）しています。



背負い動噴による省力播種作業の様子

なお、管内で栽培されている品種は、主に食用種で「アケボノ」と「ヒノヒカリ」、専用種では「クサノホシ」と一部「リーフスター」が作付けされ、収穫調製時期は9月上旬から10月中旬に予定されています。

3 稲WCSの需給調整と流通・利用の状況

稲WCS等の生産流通に係る調整会議は、年度当初の4月21日に備中県民局主催で市町・JA等担当者を集めて開催、（拡大や新規を含めた）栽培・供給希望者の状況等が情報提供され、質疑応答や意見交換が活発に行われました。

参加した関係者への取り組み意識啓発推進や共通認識を深める効果は十分あったと思われます。

作付面積等がほぼ確定した6月22日に、おか酪備南事業所等が主催して開催された本年度の稲WCS等の利用供給協定に係る調整会議には、備中地域（倉敷・井笠・高梁・新見）の関係市町・JAやコントラ組織代表等の担当者が集まり、本年度のマッチング等（需給調整、収穫運搬の手配や作業料金、販売代金等の協議と合意・確認）が順調に行われました。

管内で生産された稲WCSの供給先は、地元の倉敷市総社市内にとどまらず、新見市・高梁市・吉備中央町といった地域外の畜産農家に拡大しています。

利用（給与）技術については農業普及指導センターとして、購入（畜産）農家を戸別訪問し、ほ場からの引き渡しや保管・給与（品質・嗜好性・給与パターンや量・効果等）の状況を聞き取り、感想や意向（購入利用の継続希望や生産者側への要望等）の把握に努めてきました。

今後は、生産流通した稲WCSの品質（発酵程度や飼料成分）把握を進めるとともに、給与する牛（乳牛・肉牛）のステージ等に応じた利用指針（給与モデル的なもの）を関係者で検討し提示する予定です。

4 稲WCSによる耕畜連携体制の安定・継続に向けて

今後も、農業普及指導センターが、稲WCSの省力・低コストの栽培収穫調製技術を担い手農家（集落営農組織・個人）の立地条件等に合わせて検討・体系化し、有望な転作作物として確立させるとともに、利用（給与）技術の普及定着を図ることで、安定的な耕畜連携体制の継続・強化を支援していきます。

また、当面の間は各地域水田協やJA・おからく等団体主導による地域を越えた流通システム確立を進める（生産・利用調整を広域的に協議・検討する場の設立と自主運営を誘導する）ため、収穫調製作業の日程調整や供給者・利用者の契約手続き、保管や運搬方法等の技術的助言や相談等についても積極的な活動を展開していきたいと思っています。